

教科(理科) 科目名(理科選択) 使用教科書(数研出版:生物基礎) 履修学年(国際英語科3年) 単数(2)

	編	章	節と学習内容	学習目標(学習のねらい)	配当時間	備考 (実験や指導上の留意点)	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	進度
1 学期 中間 テスト	第1編	第1章 生物の特徴	1 生物の多様性と共通性	生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。	3	教科書の内容は、すでに1年生の生物基礎で学習している。既習事項の復習と、さらに内容理解を深めるような発展的な内容も含めて学習する。				○	
			2 エネルギーと代謝	さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	2					○	
			3 光合成と呼吸		2		○		○		
	第2章 遺伝子とそのはたらき	1 遺伝情報とDNA	遺伝子の本体であるDNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。	2	教科書の内容は、すでに1年生の生物基礎で学習している。既習事項の復習と、さらに内容理解を深めるような発展的な内容も含めて学習する。					○	
		2 遺伝情報の発現	さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。	2					○		
		3 遺伝情報の分配		2		○		○			
1 学期 期末 テスト	第2編 生物の体内環境の維持	第3章	1 体液という体内環境	多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)である。この章では体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみのはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系・腎臓と肝臓・自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。私たち自身のからだにかかわる内容についてできるだけ身近な話題を取り上げながら理解する。	2	教科書の内容は、すでに1年生の生物基礎で学習している。既習事項の復習と、さらに内容理解を深めるような発展的な内容も含めて学習する。				○	
			2 腎臓と肝臓		2					○	
			3 神経とホルモンによる調節		2				○		○
			4 免疫		2				○		○
	第3編 生物の多様性と生態系	第4章 植生の多様性と分布	1 ささまざまな植生	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。	2	教科書の内容は、すでに1年生の生物基礎で学習している。既習事項の復習と、さらに内容理解を深めるような発展的な内容も含めて学習する。				○	
			2 植生の遷移		2					○	
			3 気候とバイオーム		2		○		○		
		第5章 生態系とその保全	1 生態系	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人類は生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解する。	1	教科書の内容は、すでに1年生の生物基礎で学習している。既習事項の復習と、さらに内容理解を深めるような発展的な内容も含めて学習する。					○
	2 物質循環とエネルギーの流れ		1						○		
	3 生態系のバランス		1		○			○			
	4 人間活動と生態系の保全		2		○			○			
	2 学期 中間 テスト			まとめ	「生物基礎」の内容を復習し、より理解を深める。 ※3学期学年末テストは、「生物基礎」の全範囲	19	大学受験にも対応できるよう、問題演習を中心に行い、既習事項の理解をさらに深めていく。	○		○	
2 学期 期末 テスト			まとめ	「生物基礎」の内容を復習し、より理解を深める。 ※3学期学年末テストは、「生物基礎」の全範囲	19	大学受験にも対応できるよう、問題演習を中心に行い、既習事項の理解をさらに深めていく。	○		○		